月刊
オリーブ
2023
11
Vol.102
— 真の更生を目指して —

オリーブの家のお墓念願の納骨式です。

（令和5年9月15日建立）

私たちの国籍は天にあります
（ピリピ人への手紙　3：20）

オリーブの家が始まって10年、延べ人数は154名になります。その中にあって3名の方は天に召されました。この方々のお遺骨は市役所に一時お預けしていましたが晴れて10月22日東京から永山太牧師（恵比寿聖書フォーラム）をお迎えして納骨式を執り行う事ができました。縁あってオリーブの家に入室、信仰告白された兄弟には必ず納骨まで…と、お約束していたので今までは心苦しく、これでやっと約束を守る事が出来たと、今は安堵しています。ご奉仕して下さった永山太牧師、東京からご参列くださいました向井姉妹に心より感謝申し上げます。何よりオリーブの家にメモリアル・プレイスとしてのお墓を与えて下さいました神様に感謝です。

平成30年12月14日没「佐藤正義さん」89歳
令和3年2月27日没「小谷秋男さん」77歳
令和5年1月14日没「石井祥一さん」82歳

土のちりは元あったように地に帰り、霊はこれを与えた神に帰る。（伝道者の書 12：7）

礼拝を共にした仲間達の霊は神に帰り、土のちりは元あったように地に帰り、オリーブの家の墓に納まる。何と喜ばしい事でしょう。

熊本オリーブの家聖書フォーラム（2017年3月3日）が立ち上がり、早7年を迎えます。NPO法人ですから表立っての宗教活動はできないものの私の信仰体験を通して、又、聖書の学びを通してファミリーへの更生へお手伝いはできると信じてやってきました。それは今後も続けたいと思っています。

日本のクリスチャン人口は全人口の1％弱だと言われています。オリーブの家に入室されるほとんどの方は信仰をお持ちではありません。そんな状況でもオリーブの家で12名の受洗者が与えられたことは奇跡だと思っています。

私が受刑中、九死に一生を得る。その機会を通して「主」は、私に信仰を与え、刑余者の皆さんに証し、御言葉を伝える場としてのオリーブの家を与えられた事。その事を、熊本オリーブの家聖書フォーラムが立ち上がり7年、納骨式が出来た、この機会にもう一度初心に帰り考えてみたいと思っています。

親から虐待を受けて育った人は、人を信頼する事ができない。人を愛する事ができない人が大多数です。大きな事件を犯す人は、そんな生育歴を必ずと言って良いほど持っています。だから仕方がないではなく、虐待を受けた悲惨な現状を自分で理解し、それを超える愛を知る事が変わるきっかけだと私は思っています。ですから、今までもどんな犯歴があろうともオリーブの家はファミリーとして受け入れてきました。

過去犯罪者であっても、イエス様の愛を知り、その血潮を知る事で劇的に変わることは可能です。性格そのものの変革は難しくとも、心に聖霊を受け入れる事で習慣的に聖化されて行くものだと思います。それは私の体験からも真実です。大変厳しい環境下の中にあって罪を犯し続けてきたファミリーに、イエス様を知って頂く、これが私の使命です。どんな形であれ「主」がもう良い！というまで、命のある限り続けたいと思っています。

オリーブの家
理事長
青木康正

ファミリーの声

理事長とファミリーの交換日記から…。

不安の中「オリーブの家」入室60日目を迎えたファミリーの2週間を追いかけます。

［入室60日目］

いよいよあと一週間で就職となりました。物理的な準備は理事長のご尽力により、ほぼ整いました。後は己の気持ち（覚悟）と体調管理です。色々な事が待ち受けていると思いますが、新入社員の頃を思い出して、貪欲に仕事をしようと思います。少し弱音を吐きたい時もあると思いますが、そんな時は聞いてやってください。（笑）しっかり睡眠をとって、昼間は活動し食べ過ぎには気をつけ、きたるべき時に備えたいと思います。

［入室64日目］

毎日のみ言葉発信ありがとうございます。「月刊オリーブ」や、過去の発信内容を振り返ってみていると、2か月があっという間だなぁと思うのと、同時に自分のことを置き換えて、こんなに自分を振り返らせてくれて、そしてそれだけの時間をいただけたことを感謝しています。

一つ一つのお言葉が必ず、自分の今後の人生にプラスになると信じて、10月からの新生活に臨もうと思います。

［就職初日］

就職初日終了しました。ハウスルールを覚えるという課題をいろんな作業の中でクリアしていかないといけません。どういう仕事でもそうですけど…。後はしばらく仕事をしていませんから、体調管理をしっかりしていかなければなりません。夜8時半位の帰宅だと思いますが、温かく見守っていただければと思います。理事長始め、スタッフの皆様に改めて感謝します。

［74日目］

就職して一週間が経ちました。少しずつですが、職場の人にも慣れてきました。これから周りの目も徐々にシビアになってくると思います。自分の立場をわきまえながら溶け込めて行けたらと思います。

月刊オリーブに目を通しました。「好転反応」会社でも人間関係でも少しずつ現れてくると思います。全てを受け入れるだけの広い心を持ってできるよう歩んで行きます。

このところのニュースでアラブ諸国とイスラエルは大変な状況になっています。現地の方々は大変だと思います。遠方からですが祈りを捧げたいと思います。（O・Yさん）

着実に…着実に自立に向って歩む姿は他のファミリーの手本となっています。頑張れ！

収穫の喜び～第2弾～

オリーブの家の畑から報告です。食べきれないほどの収穫に恵まれた夏野菜もようやく終盤を迎え、次の収穫の楽しみは「根菜」です。8月の下旬に松崎スタッフが耕運機を駆使して二畝を準備、9月の中旬にジャガイモとニンジンを植えました。どちらも元気に芽を出してくれて、スクスクと成長中です。堀り上げは12月上旬頃。また、6月に植えたサツマイモは11月上旬には掘り上げます。その時はスタッフだけではなく、ファミリーのみなさんにも協力いただいて、芋掘りや人参引きをして、一緒に収穫を喜びたいと思います。オリーブの家の食卓に上がる日、みなさんの美味しそうに頬張る笑顔を楽しみにしながら、雑草取りや害虫の駆除に励んでいるオリーブの家農園です。

スクスク伸びる人参たち

支援者からの寄稿

DVはなおせる！

NPO法人 女性・人権支援センターステップ
理事長　栗原加代美

1．DV加害者更生プログラムを始めた理由

【ストーカー傷害事件】

今から13年前のある朝、離婚したDV被害者が元DV夫にナイフで刺される痛ましい事件がおきました。夫は逮捕され、12年の実刑判決が決まりました。その妻と一緒にテレビに出演した時、妻は夫が刑務所から出所してきた時の恐怖を語っていました。離婚がこの被害者に幸せをもたらさなかったのです。この事件が更生プログラムを始める大きな後押しになりました。離婚しても加害者はストーカーに変身して被害者を追ってくる場合もあるからです。

【全国電話相談】

そのころ、ステップはDV被害者を保護するシェルターを運営しておりました。と同時に全国からの被害者電話相談も受け付けておりました。「DVを振るわれていますが、どうしたらよいですか」被害者の質問への私の答えは一つでした。「離婚してください」。でも離婚できる人は1割ほどの少数でした。理由は経済力が無い、子供がいる、夫が変わるかもしれない等でした。

【シェルターでの被害者】

被害者は我慢して心身共にボロボロになってやっとシェルターに逃げて来ました。被害者は精神安定剤を服用。自殺願望、食欲不振、睡眠障害、パニック障害、思考停止、感情障害を患っていました。どんなに被害者を保護しても加害者が変わらないかぎり、被害者はこの悲惨な状況から抜け出せないのです。これらの理由から被害者保護と加害者更生は車の両輪であるべきとの結論にたどりつきました。

【選択理論】

1人の参加者から始まったこの会も、13年経った今では毎週150名が集う大グループになりました。8割の方々が変化してきました。変化の要因に選択理論の利用が大きくかかわっています。選択理論はアメリカの精神科医グラッサー博士が編み出したもので、アメリカの刑務所でも学ばれ、高い結果を出しています。学ばないと再犯率が65％ですが、学ぶと3％に下がる結果をみて、日本で初めて選択理論でプログラムを始めました。素晴らしい変化を参加者は見せております。ステップに来る参加者の8割は妻子が家を出ておりますが、参加者の7割は関係修復を果たしております。

栗原加代美
くりはら・かよみ

1946年生まれ。共立女子大学英文科卒。共立女子聖書学院卒。1977年自宅を開放して、かもい聖書教会として開拓伝道を開始、2001年NPO法人「女性・人権支援センター　ステップ」設立に参加、電話相談や被害者用シェルターを開設、同法人理事長。
DV問題に悩む女性たちを支援する中で、加害者が変わらなければ新たな被害者が出てしまう。根本的な問題解決にならないと、2011年より加害者更生プログラムを開始、DV・ストーカーの専門家として講演会活動、テレビ出演などで活躍中。

オリーブの家で見つけた笑顔

「また、天国で会いましょう！」

秋晴れの気持ちの良い朝、熊本市内の小高い丘にできたオリーブの家の墓地（〝オリーブの家メモリアルプレイス〟と呼んでください）にて、納骨式が執り行われました。ここは、オリーブの家から車で20分ほどのところです。何年も墓地を求めて祈っていましたが、ここでしたら、故人を偲んで毎月でも訪れることが出来ます。

今回3名の方のご遺骨を納めましたが、皆さんオリーブの家を卒業してからも再犯を犯すこともなく穏やかに人生を生きて召されていかれました。

墓碑には、「また、天国で会いましょう！」の文字が金色に輝いていました。

副理事長　小原順子

全国のオリーブの家をご支援くださる皆様へ

オリーブの家のお墓が完成しました。墓じまいが進む昨今、取得には理事会でも様々な意見がありましたが、青木理事長の強い思いに塀の中を経験した当事者にしか分かり得ない心情を感じ、ここにこそオリーブの家の存在意義があると改めて認識しました。神の愛と永遠への希望を携えてオリーブの家は前進し続けます。真の更生を目指して進みます。引き続きのご支援宜しくお願いします。

理事　辻村真和

2023年7月～9月会計報告

		7月	8月	9月
月次自立準備支援人数		3名／7室	3名／7室	4名／6室
グループホーム利用者数		7名／8室	7名／8室	7名／8室
累計ファミリー数		152名	152名	154名
収入	自立準備ホーム	459,756	327,450	497,178
	献金	2,419,000	947,000	1,607,500
	グループホーム	1,845,179	2,003,016	1,866,286
	その他	212,559	94,818	92,834
収入合計		4,936,494	3,372,284	4,063,798
支出	家賃	426,439	435,600	457,600
	水道光熱費	169,909	187,574	143,125
	食費	309,135	381,616	420,482
	人件費	2,236,181	2,002,356	2,022,280
	活動費	112,149	144,813	153,332
	その他経費	491,993	484,318	386,569
支出合計		3,745,806	3,636,277	3,583,388
収支合計		1,190,688	-263,993	480,410

前月繰越現金預金残高	3,470,815	4,334,087	3,847,829
翌月繰越現金預金残高	3,294,237	3,847,829	4,901,347
施設準備積立金残高	3,350,067	2,450,088	2,500,088

※ 今月より自立準備ホームを6室に設定しました。　※　ある姉妹から100万円の献金をいただきましたので、繰越現預金残高が、先月の赤字分と今月の黒字分と相殺しても100万円近く増えています。感謝します。

銀行振込

肥後銀行（銀行コード：**0182**）
京町支店（支店コード：**156**）
口座番号：（普通）**1574408**
口座名義：NPO法人オリーブの家
トクヒ）オリーブノイエ

郵便振替

銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード：**990**）
口座番号：**17180-5444801**
口座名称（漢字）：NPO法人オリーブの家
口座名称（カナ）：トクヒ）オリーブノイエ
（他銀行からお振込の場合は）
店名：七一八（読み：ナナイチハチ）
店番：**718**
口座番号：（普通）**0544480**

月刊オリーブ
2023年11月１日発行
(毎月1回発行)　第102号

編集・発行　ＮＰＯ法人「オリーブの家」
〒860-0082　熊本県熊本市西区池田２丁目９番１号コーポ池田201
TEL 096-342-4123 FAX 096-342-4248 E-mail 0110harvest@gmail.com
http://seishoforum.net/olive-house/about/